

参加学生募集!

第7回大倉山国際学生フォーラム横浜 2018 開催のお知らせ

あ じゃ り

あの!千日回峰行 48 人目の阿闍梨 上原行照大阿闍梨 が初めて学生達に講演くださるこの機会を 見逃すな!



上原行照大阿闍梨
千日回峰行 48 人目の阿闍梨、姨苅耶山 伊崎寺住職。

写真提供: © 正木輝明

千日回峰行
千日回峰行は、数多くの中から選ばれた者のみに許され、厳格な定めに従って行われる過酷な行です。期間は7年にわたり、その間1日たりとも休むことはできません。まさに行者は心身の限界に立つのです。山廻り・堂入り・京都大廻り・満行・土足参内と進む回峰行に全身全霊を傾けて取り組む行者の姿と、比較して洛中洛外の美しい四季の移り変わりの取り合わせは、荘厳な迫力で見守る者の心を捉えます。



■日程: 2018年6月30日(土)
12時~19時
■会場: 横浜市大倉山記念館
〒222-0037 横浜市港北区大倉山 2-10-1 東急東横線「大倉山駅」徒歩7分

出演者プロフィール



【特別講演・対談】

上原行照大阿闍梨

千日回峰行 48 人目の阿闍梨、姨苅耶山 伊崎寺住職。

昭和三十四年、群馬県前橋市の天台宗寺院に生まれる。地元中学校卒業後すぐに比叡山に登り、叡南覚照大阿闍梨の許、出家得度する。小僧修行のかたわら比叡山高校に入学し、開行双修の生活が始まる。昭和五十六年、回峰初百日を無事に満行。昭和五十九年、叡山学院研究課を卒業。昭和六十年には三年籠山に入り、九十日間の常行三昧も満行するが、師匠叡南覚照大阿闍梨が千日回峰行の代行満大阿闍梨であった縁もあり、同六十三年四月二日、本人の発心は言うまでもなく、不動明王のお導きでもあるかのように千日回峰行に出峰した。



【対談】

ジェームズ ロブソン

ハーバード大学東アジア言語文明学部・教授

2002年、スタンフォード大学で仏教学の博士号を取得。1991年~1995年、京都大学人文科学研究所に在籍中、中国、台湾、日本の研究をする。専門分野は東アジアの仏教と道教の歴史。

【著書】

2009 The Power of Place: The Religious Landscape of the Southern Sacred Peak (Nanyue 南嶽) in Medieval China ハーバード大学出版

2014 The Norton Anthology of World Religions: Daoism



【演奏】

高橋竹童

津軽三味線演奏家

1970年新潟生まれ。父親の影響で9歳より津軽三味線を始める。高橋竹栄のもとで早くからその素質を開花させ、津軽三味線の大家、初代高橋竹山に師事、最後の内弟子となる。胡弓や三線も取り入れた奥行きある演奏の深い叙情性には定評があり、豪快な音締めと軽妙洒脱な舞台運びでオリジナルなスタイルを創出している。大衆演劇や落語等の芸能文化への造詣も深く、ジャンルを超えて一層の広がりを見せており、更なる注目と期待を集めている。



【通訳】

マーク大島

歌舞伎研究家、翻訳家

歌舞伎研究家、翻訳家であり、清元志磨太夫の名で清元節太夫としても活躍。コロラド州出身。ハーバード大学と国際基督教大学(ICU)で学び、1987年から東京に在住。イヤホンガイドで歌舞伎・文楽の英語解説と翻訳を行っている。

【法螺師】

宮下覚詮

【休憩中パフォーマンス】

岸根囃子連 お囃子

開催のお知らせ

毎年、横浜の大倉山記念館にて行われている「大倉山国際学生フォーラム」も今回で7回目の開催となります。今年もハーバード大学の学生30名(予定)が日本に滞在しているこの機会に、参加学生を募集することとなりました。国際交流に興味がある学生、日本の文化をハーバードの学生とともに学びたい!と思う学生の参加をお待ちしております。尚、応募方法は大学ごとの申し込みとなります。選考方法等は各大学の窓口にお問い合わせください。

横浜でハーバードの学生と国際交流をしよう!

【開催概要】

- タイトル: 第7回大倉山国際学生フォーラム横浜 2018
- 主催: ハーバード大学ライシャワー日本研究所
大倉陽子プロジェクトチーム
- 共催: 横浜市、横浜日米協会
- 後援: 駐日米国大使館
- 参加学生: ハーバード大学 30名 /
東京工業大学 10名
横浜市立大学 10名
慶應義塾大学 10名
*募集予定



The 7th
Okurayama
International
Student
Forum
Yokohama
2018

【大倉山国際学生フォーラムとは】

近年、経済、文化、学術等あらゆる分野での国際交流・相互依存関係が深まりつつあります。そんな中「世界の中の日本」としてその役割がますます大きくなっていることは明白です。政府レベルでの国際協力や国際交流はもとより学生レベルでの交流も進められているようですが、まだまだその機会が少ないこうした国際化の潮流に呼応し、学生の国際感覚を養う場を継続的に提供する事をミッションと捉え、大倉陽子プロジェクトチームが中心となって国際学生フォーラムを開催しています。